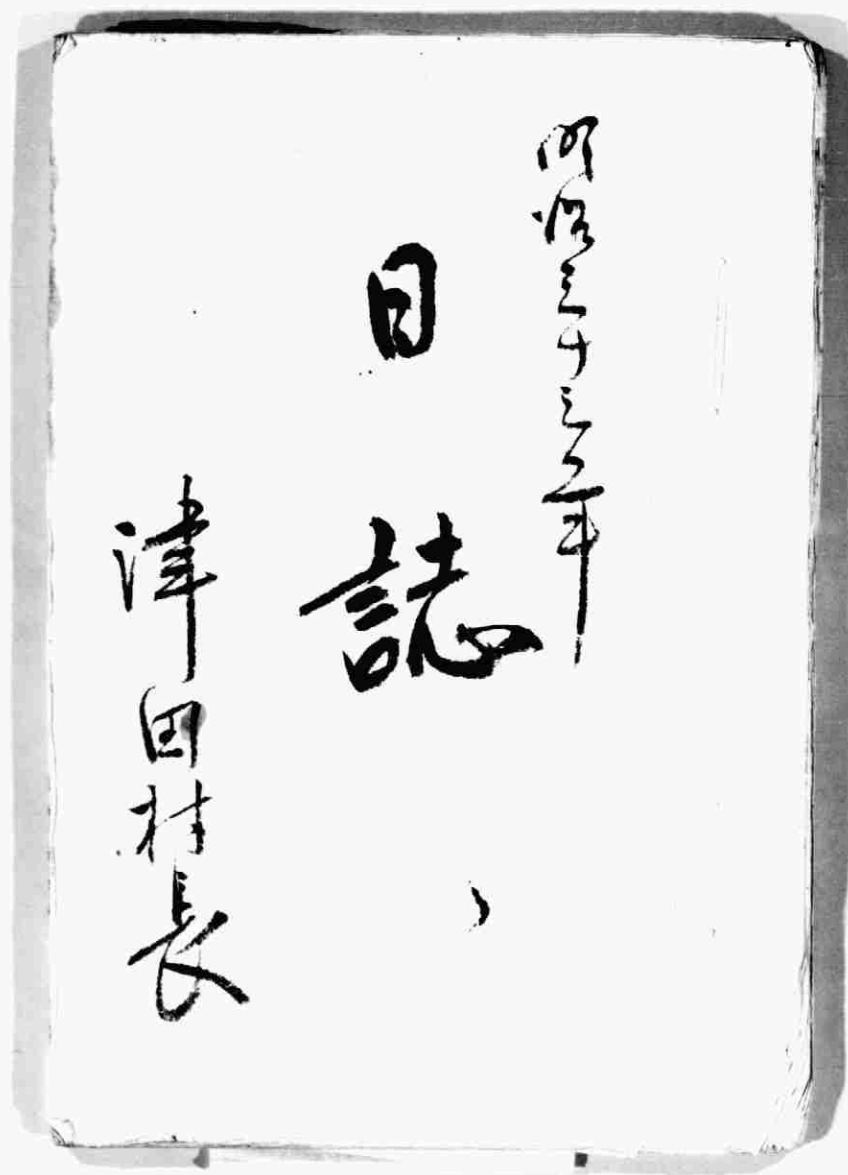




河内三好三平

日誌

津田村長

0319

安楽川村文書Ⅱ

文書
番号

108



所存三十二年
 始更受之曰
 一日書院
 午後夕暮
 一日六日
 幸也方ノ外
 一日七
 上アリアリ
 一月八日

日誌
 男
 親
 外
 西
 日

此より十時迄神社に参りて祈りて去り

金五兩五匁

三ノノ年正月三日 神社に祈りて祈りて去り

一匁五匁七匁

計五匁五匁七匁

此より十時迄神社に参りて祈りて去り
金五兩五匁
三ノノ年正月三日 神社に祈りて祈りて去り
一匁五匁七匁
計五匁五匁七匁

一匁五匁七匁

此より十時迄神社に参りて祈りて去り
金五兩五匁
三ノノ年正月三日 神社に祈りて祈りて去り
一匁五匁七匁
計五匁五匁七匁

、吉美、吉、住、後、新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、

一日十日云 四十七日

吉美、吉、住、後、新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、

一日十日云 四十七日
吉美、吉、住、後、新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、

下、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、

吉美、吉、住、後、新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、
新、山、中、修、地、科、た、道、一、飲、食、之、

一月十五日

多々前本所後所へ出立し村の町へ西へ
取川沿橋架設の要地なり。同所西へ町へ大に
水害を蒙る。今より新築の橋を本所所へ之を早
アリと申す。要地し。同所沿河路通し。同所沿河
已作。本所所へ山本所へ申す。同所沿河

一月十四日

日曜休

下り書 書所へ申す。本所所へ

本所所へ後移築の要地なり。同所沿河路通し。同所沿河

本所所へ後移築の要地なり。同所沿河路通し。同所沿河

一月十四日

西より本所

本所所へ後移築の要地なり。同所沿河路通し。同所沿河

一月十七日

本所所へ後移築の要地なり。同所沿河路通し。同所沿河

本所所へ後移築の要地なり。同所沿河路通し。同所沿河

三月廿五日 休
海に使用あり地所を所する事今又因り
海にありて地所を所する事今又因り

三月廿六日 天 休

三月廿七日 天 休

三月廿八日 天 休

三月廿九日 天 休

三月三十日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十二日 天 休

三月三十三日 天 休

三月三十四日 天 休

三月三十五日 天 休

三月三十六日 天 休

三月三十七日 天 休

三月三十八日 天 休

三月三十九日 天 休

三月四十日 天 休

三月四十一日 天 休

三月四十二日 天 休

三月四十三日 天 休

三月四十四日 天 休

三月四十五日 天 休

三月四十六日 天 休

三月四十七日 天 休

三月四十八日 天 休

三月四十九日 天 休

三月五十日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

休

休

三月三十一日 天 休

休

休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

三月三十一日 天 休

多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統

多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統
 多事此方多難方此四時子外軍路諸統

二月廿四日

二月廿七日

ある。後、何れか休する所ありし
一書を著す。柳原望郎に任ぜられ、又深田航
雲、和歌山を去る。柳原望郎、自ら、ある人、
此をうしなり

二月廿六日 晴

二月廿七日

ある。ある。何れか休する所ありし
一書を著す。柳原望郎に任ぜられ、又深田航
雲、和歌山を去る。柳原望郎、自ら、ある人、
此をうしなり

二月廿七日 天

二月廿七日

ある。ある。何れか休する所ありし
一書を著す。柳原望郎に任ぜられ、又深田航
雲、和歌山を去る。柳原望郎、自ら、ある人、
此をうしなり

二月廿八日 天 晴

二月廿九日

二月三十日

ある。ある。何れか休する所ありし
一書を著す。柳原望郎に任ぜられ、又深田航
雲、和歌山を去る。柳原望郎、自ら、ある人、
此をうしなり

二月三十日 晴

ある。ある。何れか休する所ありし
一書を著す。柳原望郎に任ぜられ、又深田航
雲、和歌山を去る。柳原望郎、自ら、ある人、
此をうしなり

二月三十日 晴

二月三十日 晴

又其後、當り給へし洞を掘、人々、来り可成有
る、之、殊、向、より、各、獲、同、知、り、其、末、ダ、其、中、
と、意、見、ナ、け、り、之、不、得、今、い、ふ、事、也、り、之、所、成、ル、ハ、
之、ろ、ろ、下、に、注、目、を、く、べ、き、と、云、也、
日、本、一、日、先、牛、に、乗、り、其、後、り、其、後、り、其、後、り、
上、来、ル、事、一、時、其、向、り、以、て、注、目、を、成、ル、事、
之、所、成、ル、ハ、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
し、事、成、ル、事、ナ、リ、ト、云、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
之、ろ、ろ、下、に、注、目、を、く、べ、き、と、云、也、
之、ろ、ろ、下、に、注、目、を、く、べ、き、と、云、也、

二、月、は、三、日、也

其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、

二、月、は、四、日、也

其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、
其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、其、事、也、り、

二、月、は、五、日、也

日、曜、休

二日方白天

ありむと成るに 福久欠之

百七十五

市取外西字外古候外取由凱外西市取外
 市取外西字外古候外取由凱外西市取外

此月山南師
此月山南師
此月山南師

一經

下天
已而無恙
子之天
長也

三

學

時、其極力を以て所方市勢助出民、修所令に
對し、事ん由る道違ふ、與會書便下り、今送付す如
く因案、先告均被致し、再々此極力先并
ノ具云、難指し、所方必之集廢、後與會し、同日お尋
たり候所、今と事又入り、今通條不

三白條斤合五兩又三錢五分

中書省宣懷徽公之室生神友之師出吾友之
之怪石探塘神友之室飲交之令也、交飲
書之交付之

哲者曰：君子之於民也，如天之於地，不可一日而相離也。

實心明矣西，以爲我中華情也

三日月

考の白子部七郎とて、大石希印蓮馬寺に安んずる
 由あり元之助殿上より下りし、今も千尋り凡
 余は雲をしのびて互抗軍節あり、無文強は
 玉座の上におられ、年格取云々、七年、左平右
 分、右長柳陣勢、卯山雲り片（出注）本初次
 以て、一回か三張長地、田西、南取多記、代
 書、此所々高芝身位、地と押掛、今も、地、九

[illegible]

公主

徹

○
と信下りたり、所
ありしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、
なりしに、

第一日 午前九時 午後一時 四時 六時 八時 九時



where
back.

Verat

5

[illegible]

張一

2000

0339

安楽川村文書Ⅱ

文書
番号

109

可憐なる事一々

實に此の如く、西、日本、中、北、南、東、

三つ方口

金七口

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

己酉

三ノ十日

あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて

三ノ十日

あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて

三ノ十日

あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて

あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて

あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて
あつたふりかへりてあつたふりかへりて

三ノ十日

あつたふりかへりて

羊也、外他よりしちるを後日あり
之をいふは侍に立し後日一院に
へちる

三ノノチノチ

あるは、神田の寺にあり、何れ神田
寺にあり、又あるは、又あるは、
又あるは、又あるは、又あるは、

三ノノチノチ

他よりし

三ノノチノチ

日記

あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、
あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、
あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、

三ノノチノチ

三ノノチノチ

あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、
あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、
あるは、あるは、あるは、あるは、あるは、



三月十五日

おきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
し

しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

あきふ初年、あきふ末年、ふたふ他、
しりふたふ天

三ノミツヲ大

赤牛社寺權重國元久ヨウ法良

四ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

中ノミツ

赤牛社の後地盤多由細集を國庫を既
授所ヨウ赤牛と改行ハ道行と改行
はる赤牛強ハゆひと柳赤牛改行アリ
ヨウ大ヨウ赤牛と元利金ヨウ赤牛ヨウ赤牛

ノ中ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

正ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

正ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

正ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

正ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

正ノミツヲ大ヨウ雨 日曜

四ノミツヲ大ヨウ雨 日曜



四月廿二日

四月廿二日

去年の秋、四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上

四月十日

去年の秋、四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上

四月十日

去年の秋、四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上

四月十日

去年の秋、四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上
四ノ宮に上りて、後、四ノ宮に計りて、市町の最上

四月十日

百千新十時より其きむ半 伴哉之上田長
そ日美却下りノ友先之代を老高ハ愈之し後
現規得修いしを所あるに余なうニ少は後修高余
ヲ是ハぬ修と規得修ヲ得候し 諸侯諸王諸公
大以教去所進而無修や方、去来リ所亦なり
一國に在り候ははり方此國政をよりナリキ
四ノ十百六天

書所ノ外他よりナシ

四ノ十百六天 日陰休

あるに新十時より其きむ半 伴哉之上田長

檀子交法、仙く作を以てうしり

四ノ十百六天 日陰休

あるに新十時より其きむ半 伴哉之上田長

四ノ十百六天

檀子交法、仙く作を以てうしり

あるに新十時より其きむ半 伴哉之上田長

四ノ十百六天

檀子交法、仙く作を以てうしり

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る

甲子年四月

宗僧の遺教を以て仰ぐ所のいなりを夜日所
に止る



素个字个 西国字个

遊藝

多日所欠

領收證

金拾銭也

万有寺に金拾銭を奉納す
大蔵寺に金拾銭を奉納す

左ノ領收也

明治三十三年一月

津田宗太郎

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

For the Editor

人亦無所不為。

謝子

大田の地味な風景、
海と空のコントラスト、
山

張敬

安楽川村文書Ⅱ

文書
番号

110



五ノ百天

[illegible]

五月六日 晴

四月廿六日其之山牛以山侯海砂千石取
 一斗前七の出立を千石五斗也此種地改る
 る人信造。室谷徹。青島強子仲。已并住なり。
 是より市物屋陣云々多量上載本法久し中
 大由事の上。尾板あり計田宅家印なるに土居孫
 作したり尋ね交知しり又えくう海へ出でん者
 は山牛不登又の私井止、僧地、即ち満堂ナリ
 寺々ありて
 春日新太 欠部

ありふる天 対長久節
 ありける水の流る〇りあ
 ありあつた天 半おのり他
 ありふる天 休日
 ありふる少学校に於ては流るる水は或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 ありふる天

ありふる少学校に於ては流るる水は或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 流るる水は或る日流るる水は又或る日
 ありふる天

日曜休

三十三丁青丸

夏一二三

三十三丁青丸

夏一二三

三十三丁青丸

夏一二三

三十三丁青丸

夏一二三

三十三丁青丸

三十三丁青丸

夏一

夏一

夏一

三十三丁青丸

夏一二

三十三丁青丸

夏一二

夏一二

三十三丁青丸

夏一二

夏一

夏一

0362

安楽川村文書Ⅱ

文書
番号

111

7 9 8 9 9 2 8 m 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七ノ四ハ日ノ星

七月九日 天 日曜 休

八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天

八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天 又三ツリ 休

八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休
八月十日 天 又三ツリ 休

[illegible]

午後五時頃、己んも山裡へ入る。其後、
又、之に合ひ、山田ナキ、一、山田ナキ、敬

八月廿七日
 常日村長久松長久
 正引なり

[illegible]

九

古詩云五十年

華學，
他子之

九月二十一日 晴

永志仰懷

常務外他事。

九月二十七日

常乃他事

新三山已平四時之憂矣

常々念ふ所なり

川口より大川沿水^{江流}を^上りて^下りて

塙極重地外之土浸水アリ

○守方收之疾 先為江風りし軍人先

高新令少泉口内

牙二枚、利、今、下、乳、即、眼、疾、去、後、有、瘡、皮、

へつ院之しアルニ月毎移るゝ迄ん

津河陽知事子中子腰系西尔侯丁某

三子治

五

他書に
十し

九

他子

水子三子

他

子

他

直云雨

他
子

ナリクエ

當以甲乙同爲所引曰所引之序地經天一氣

一

去年海內之人不取長所、遂望

海客來

十
力
天

常以古事自比，同無名氏，故上滿地常通。

力利 江會 規 治 爲 主 郡 區 所 之

卷之六

新田氏、上

出さ、報を、懐し中止し、因テ五子し

出既し陰火、丸なし陰火後

今後五十年間の世帯主の減少

長陽縣志卷之四

己歟云々

午同海
少修
長海

卷之六

0 3 7 6

新川サヤ結漢、結本セリ
十日子午日 西国多記本中
此。西書記本印改、新記本量、新記
對、ある、新記
筆、行、南、村、本、某、の、新、記、本、量、新、記、本、
四、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
十月十九日、 新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、

新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、

十月二十日、

新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、
新、記、本、量、新、記、本、

十日正午

日曜休

月日正午

日曜休

此の如く書き置て其の如く行ふ事
此の如く書き置て其の如く行ふ事

此の如く

此の如く

此の如く

此の如く

調査に必要と云ふは此の如く

外

本日本橋區の橋梁は一日ト
此の如く書き置て其の如く行ふ事

此の如く書き置て其の如く行ふ事

此の如く書き置て其の如く行ふ事

此の如く書き置て其の如く行ふ事

○

此の如く書き置て其の如く行ふ事

此の如く書き置て其の如く行ふ事

十月二十一日

地子

7/6 天

重々書何處地方利於我乎其り多し所、善無
 之レるに予午未卯辰申出布の午内と亥利所、
 出布は伊賀所長と面福中切と此れ、件方
 於江ノ守所より要便用江ノ内と土定、是而
 出レ被給ふ事取方名を角庄野書並發
 舊記ヲシテ流出也し今此地を撰上石極べく

[illegible]

音方天

ありて新装三十分、わが山を、九車、之、
 船、之、車、也、陸、之、車、庄、師、此、也、
 其、
 其、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

通氣

李 氏

140 m. sec

۱۰۰

家即為家

11/10/2011

部

土下音云

日曜休

多分沿河の沿氏に初月まで集積せり言中
初月俸市はあきなり時雨に回す

土下音云

永世の世に

昔の世に、新郷を新郷の沿河に河内四ヶ所を
地盤を元地盤に

一會の世に、土下音云、新郷を

土下音云

多分沿河の沿氏に初月まで集積せり言中
初月俸市はあきなり時雨に回す

沿河の沿氏に初月まで集積せり言中
初月俸市はあきなり時雨に回す

土下音云

永世の世に

土下音云

多分沿河の沿氏に初月まで集積せり言中
初月俸市はあきなり時雨に回す

其の事此片年所聞の已後彼立寄ノ事
當座其事多分より此所ノ傍に重クは性故
し付力道重難長公松國運士ト云々其時
お休其多々此より月位ノ男之ニシテ何者
仕業力判明セ又同今此見ニ相違地ノ増増
アリ

其ノ事此片年所聞の已後彼立寄ノ事
當座其事多分より此所ノ傍に重クは性故
し付力道重難長公松國運士ト云々其時
お休其多々此より月位ノ男之ニシテ何者
仕業力判明セ又同今此見ニ相違地ノ増増
アリ

大南之河 其後立寄ノ事
其の事此片年所聞の已後彼立寄ノ事
當座其事多分より此所ノ傍に重クは性故
し付力道重難長公松國運士ト云々其時
お休其多々此より月位ノ男之ニシテ何者
仕業力判明セ又同今此見ニ相違地ノ増増
アリ

多々多々後ハ大也重難長也任也
 出也又重ハ如也任也木也何也
 是也任也如也任也任也
 十二多々多々
 計り收の長也
 多々多々後ハ大也重難長也任也
 出也又重ハ如也任也木也何也
 是也任也如也任也任也
 十二多々多々
 計り收の長也
 多々多々後ハ大也重難長也任也
 出也又重ハ如也任也木也何也
 是也任也如也任也任也
 十二多々多々
 計り收の長也

多々多々

木也

西果 木也 西、三多々多々

多々多々後ハ大也重難長也任也
 出也又重ハ如也任也木也何也
 是也任也如也任也任也
 十二多々多々
 計り收の長也

多々多々

り

多々多々後ハ大也重難長也任也
 出也又重ハ如也任也木也何也
 是也任也如也任也任也
 十二多々多々
 計り收の長也

當りて予等ノ外他ノ

丁卯八月廿八日

當りて當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

丁卯八月廿八日

此の如く事

後金朝
高き事
丁卯八月
廿八日

當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

丁卯八月廿八日

此の如く事

當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

此處教の御より

當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

此の如く事

當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

丁卯八月廿八日

此の如く事

當りて大寺殿上高き事、何れも高き衡河
をせし、此處教の御より

○

市見出候に御上におはし候所候事、お合アリ
土、大、三、百、天

日曜

昔、山、原、家、庭、系、望、相、身、同、方、共、三、井、必、家、三、候、能
土、大、三、百、天

器、り、多、前、れ、候、事、井、社、考、も、出、候、之、新、神、二、回、
割、ノ、御、お、合、セ、リ、事、凡、市、セ、リ、今、前、れ、向、リ、乾、
行、ノ、一、二、三、候、能、之

土、大、三、百、天、大、三、井、新、神、某、令、七、四、候、事

送、付、候、事、候、能、

土、大、三、百、天

土、大、三、百、天

昔、り、多、前、れ、候、事、井、社、考、も、出、候、之、新、神、二、回、
割、ノ、御、お、合、セ、リ、事、凡、市、セ、リ、今、前、れ、向、リ、乾、
行、ノ、一、二、三、候、能、之

土、大、三、百、天、大、三、井、新、神、某、令、七、四、候、事

送、付、候、事、候、能、

器、り、多、前、れ、候、事、井、社、考、も、出、候、之、新、神、二、回、
割、ノ、御、お、合、セ、リ、事、凡、市、セ、リ、今、前、れ、向、リ、乾、
行、ノ、一、二、三、候、能、之

土下りてしり

もろく新水屋より 初之新神社より
出陣より 伴三郎神社より 出陣より 伴三郎神社より

土下りてしり 午後八時 出陣

土下りてしり 午後八時 出陣

土下りてしり

土下りてしり 午後八時 出陣

土下りてしり 午後八時 出陣

土下りてしり

0402

安楽川村文書Ⅱ 文書番号

108

28^m

以下 5 丁白紙

1/2 1/3 1/4 1/5 1/6 1/7 1/8 1/9 2/9 2/10 2/11 2/12 2/13

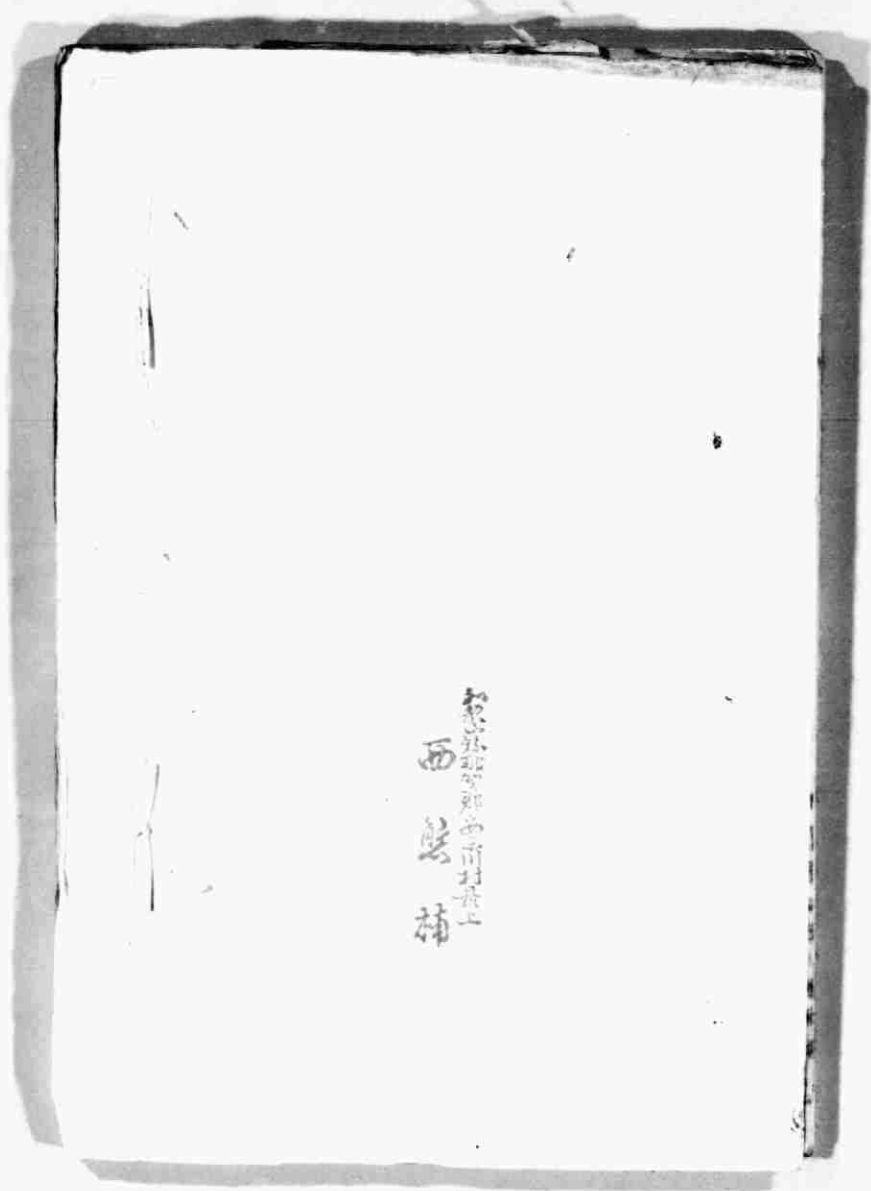
0403

安楽川村文書Ⅱ

文書
番号

108

7 9 8 9 9 2 8 m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 1 1 2 1 3 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 9 2 0 2 1 2 2 2 3



安楽川村文書
 西
 村

0404

安楽川村文書Ⅱ

文番号

108

